



## 主体的に学ぶ生徒をはぐくむ 授業づくりのヒント

教える側から学ぶ側に視点を移し  
一人ひとりの生徒の学びの状況を見て取る  
「生徒の姿から学ぶ授業づくり」

### ＜生徒の実態（どのように学んでいるか）を授業のスタートにする＞

- 「生徒の姿から学ぶ」姿勢を忘れない。うまくいかない時、その原因が指導法にある可能性を考える。
- 言葉には出さなくても一人ひとりの生徒の姿（授業への参加の仕方）が、教員にメッセージを伝えている。
  - ・「この生徒は、今、何を考えて（思考し、探究して）いるのだろう」「この生徒はどこまで理解し、どこでつまづいているのだろう」「この生徒の学び方の特徴は何だろう」という視点で、一人ひとりの生徒を見ていく。

### ＜生徒一人ひとりの学びを保障する＞

- 伝えたいこと学ばせたいことを、「どう学ばせるか」という視点で授業をデザインし、生徒が学ぶ環境をつくる。
- 見通しを持ちやすい授業展開にする。
  - ・具体的な目標の提示（見通し）、授業の流れを明確にする（展開の構造化）など
  - ➔見通しを持つことは、生徒の主体的な参加を促進させ、集中力の維持や統合的な理解にもつながる。
- できるだけ多くの生徒に届く授業を行う。
  - ・「多様な提示方法」「多様な参加方法」「多様な表現方法」を提供する。（学びのユニバーサルデザイン）
- 様々な学習スタイル（認知特性）に応じた指導を行う。
  - ・「視覚」「聴覚」「運動感覚」を意識し、1時間もしくは単元の中に多様な感覚を用いる活動を取り入れる。
  - ・体験して学ぶ時間を取り入れる。
    - ➔体験を通して理解した知識は習得度が高く、活用できる真の知識になりやすい。
- 「生徒が思考し、生徒が達成する」ことを大切にする。
  - ・問いかけたら、答えるまで待つ。
    - 生徒が考える発問をする。答えを出すためのヒントではなく、考えるためのヒント（補助発問）を与える。
      - ➔生徒は沈黙の間に思考し、そこから学びが生まれる。この時間を十分に保障する。
- 協同的な学びを大事にする。
  - ・ペアワークやグループワークなどの「協同的な学び」を取り入れることによって全員が活動でき（同時性）、一人ひとりの気づきを共有することで生徒同士が学び合える（互恵的な学び）。
    - ➔多様な意見を知ることで本質に近づきやすくなる。
    - ➔多様な考え方や学び方があることに気づくことで、自分自身の学び方が広がったり深まったりする。
- 目的と手段を混同しない。
  - ・ノートに書くことは手段であって目的ではない。書くことによって思考し、理解し、覚えることが重要である。
  - ・きれいなノートを作って満足するのではなく、「今日はこれを学んだ」という実感を得られることを大事にする。
  - ・ペアワークやグループワークを単なる作業に留まらずに、「探究する時間」を十分にとる。
    - ➔「これを学んだ」という実感が、すぐに忘れる知識ではなく、次の学びにつながる本質的な学びになる。
  - ・ペアワークやグループワークを行うことが目的ではない。学び合い、かかわり合いながら集団で思考することによって、「新たな気づきを得ながら個人の思考が深まる」ことが大切である。
    - ➔簡単には解けない課題に、他者とのかかわりを通して向かい合うことによって、探究的思考は深まる。

※本リーフレットは、平成25・26年度調査研究「学校全体で取り組む学習支援の充実に関する研究」の成果物として作成しました。ダウンロード版の冊子には、学習活動研究会で協議された「生徒の学びの様子」や「学び合いを促進するための工夫」等も掲載しています。ホームページよりダウンロードできますので、ぜひご利用ください。

<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>



問い合わせ先 神奈川県立総合教育センター教育相談部教育相談課

〒252-0813 藤沢市亀井野2547-4 (電話) 0466-81-8521

# はじめよう 学習活動研究会

～主体的に学ぶ生徒をはぐくむために～



皆さんの学校にこんな生徒はいませんか。「聞いているようなのに指名されると答えられない」「ノートはしっかり書いているのに試験では点数をとれない」「指示されたことしかやらない」「わからないと言えない」

このような生徒はやる気がないのではなく困っているのかもしれません。教室には多様な生徒がいます。そこには一人ひとりの学び方や、それぞれの学習スタイルがあります。そして、生徒を自立した学習者に育てるためには、授業が「生徒が主体的に学ぶ場（考え、理解し、表現する場）」となることが望まれます。しかし、授業の充実、個々の教員が一人で取り組むだけでは限界があるのではないでしょうか。生徒の行動上の問題に対して、教員が教科や学年を越えてチームで対応するように、授業の充実にも学校全体で取り組むことが求められています。

『学習活動研究会』において、教える側から学ぶ側に視点を移し、生徒の学びの状況や学び方の特徴を見て取り、生徒が主体的に学ぶための手立てについて、教科を越えて検討することは、生徒の多様な学びを支えることにつながります。

授業の充実を図り、主体的に学ぶ生徒をはぐくむために、皆さんの学校でも、学校全体で取り組む『学習活動研究会』をはじめませんか？

神奈川県立総合教育センター

平成27年3月

**はぐくみたい生徒像  
「めざす姿」の共有**

主体的に学ぶ生徒をはぐくむために、「生徒にどう学んでほしいのか」「主体的に学ぶとは具体的にどのような姿なのか」を検討し、全職員で共有する。

**「生徒が主体的に学ぶ授業」の充実に向けた取組のサイクル**

＜指導案の検討＞ ＜授業の実践＞ ≪学習活動研究会≫ というサイクルに、学校全体で取り組む。

**多角的・多面的な  
＜指導案の検討＞**

- 教科を越えて検討する …教科特性によらない素朴な疑問から本質に迫る
  - ・多くの生徒にわかりやすい授業展開の工夫（スモールステップ化、構造化など）について
  - ・生徒が思考を深めるための発問の工夫や、生徒同士が学び合うための課題設定などについて
- 教科として検討する …教科を越えた検討を受けて、改めて目標や手立てを確認する
  - ・教科として単元（題材）や本時の目標を押さえ直す
  - ・理解を深めるための「視覚化」「体験的な学び」「共有化」のための手立てについて確認する

≪こんな気づきがありました！≫

・教科を越えて検討することに初めはとまどい、意見も言いにくかったが、思わぬ意見やアイデアが出されるなど、自分とは異なる視点加わることで視野が広がった。  
・他教科の教員の視点は生徒の視点に近い場合があり、その視点をいかして検討することで、「生徒に何を学ばせたいのか」などについて改めて考えることができ、課題設定が明確になった。



**ポイント**

- ◆ 学年会や教科会など既存の会議を活用する
- ◆ 「授業づくりチェックシート」などのツールを活用する
- ◆ 「学びのユニバーサルデザイン」の視点で考える
- ◆ どんな意見も否定せず、たくさんのアイデアを出し合う

(例)

**授業づくりチェックシート**

- 本時のねらいは明確か
- メリハリのある授業構成になっているか
- 生徒の学びがOFFになる時間はないか
- 板書は工夫されているか
- 生徒が考えるための発問になっているか
- 協同的に学ぶ場面は設定されているか

**手立てを工夫した  
＜授業の実践＞**

※調査研究協力校の取組より

- ・授業の始めに本時の目標を提示し、黒板に貼っておく。（見通し）
- ・集中を維持しやすいよう短時間の活動を組み合わせ、メリハリのある授業を構成する。（展開の構造化）
- ・「見る」「聞く」「話す」「書く」「体験する」など、多様な感覚を用いる活動を意識的に取り入れる。（多様な提示方法・参加方法・表現方法の提供、認知特性への配慮）
- ・ペアワークやグループワークなど、全員が一斉に活動でき、学び合う場面を設定する。（同時性・協同的な学び）
- ・授業の最後に小テストなどを行い、学びの状況を確認する。

生徒：自身のモニタリング  
教師：次の授業にいかす形成的評価

≪こんな気づきがありました！≫

・ペアワークやグループワークを行うと、関係のないお喋りで教室中がうるさくなってしまったり、一部の生徒に任せてしまって全員の活動にならなかったりするのではないかと考えていたが、生徒は予想以上に前向きに取り組み、しっかりと意見交換するなど、より深い学びにつながっていた。  
・自分が当てられた時にだけ考える生徒が多かったが、ペアワークなどを取り入れることで、どの問いにも全員が取り組めた。  
・教師が説明するよりも体験的な活動を取り入れる方が、生徒の集中力は高まり、表情も明るく、積極的に取り組んでいた。



**学校全体で取り組む  
≪学習活動研究会≫**

【 学習活動研究会の流れ 】

- 授業者より
  - ・単元やねらいの説明
  - ・検討課題（工夫した手立て）の提案
- 授業のビデオ記録を見る
  - ・検討課題に挙げた場面をビデオ記録により丁寧に見直し、生徒の「学びの状況」や「学び方の特徴」を見て取る。（どのように学んでいたか、どこまで理解したか、どこでつまづいているか等）
- グループ協議①
  - ・「生徒の学び」について、一人ひとりが気づいたことをグループで共有する。
  - ・工夫した手立ての成果や課題、次の授業に向けた更なる手立てを検討する。
- 協議された内容を全体で共有する
  - ・各グループの気づきを全員で共有し、学び合う。
- グループ協議②
  - ・「自分の授業にいかせる工夫」について話し合う。

**ポイント**

- ◆ 授業研究を推進するチームが学習活動研究会をファシリテートする

**ポイント**

- ◆ できるだけ多くの教員が直接授業を観察する（生徒の発言やその場の雰囲気を感じ取るため）
- ◆ 教室前方からビデオを撮る（見過ごしがちな一人ひとりの生徒の様子を把握するため）
- ◆ 「この生徒は、今、何を考えているのだろう」「この生徒はどこまで理解し、どこでつまづいているのだろう」「この生徒の学び方の特徴は何だろう」という視点で、一人ひとりの生徒の様子を丁寧にみて取る（課題設定や手立ての工夫等にいかすため）
- ◆ グループのメンバー構成を工夫する（活発に協議するため）  
例：4～5名で1グループにする、教科や経験年数が偏らないようにする
- ◆ 付箋やワークシート等を用いて話し合いを可視化する（協議の焦点が絞られ、共有も図りやすくなるため）

≪こんな気づきがありました！≫

・ビデオ記録で改めて生徒の様子を見たら、「何の問題もなく解いているように見えていた生徒が、実はまったくわかっていなかった」ことがわかって驚きだった。多くの視点で授業を振り返る大切さを感じた。  
・生徒同士が意見をやりとりしたり、一人の生徒のつぶやきを教師が拾ってクラス全体に共有したりすることで、個々の考えが、より深まることがわかった。  
・授業中には見過ごしがちな生徒のサインやつぶやきに、協議によって気づくことができた。



生徒の姿から学ぶ